

2. 胃X線検査を行つた 1300 例のうちの 62 例の胃切除例を検討し、潰瘍の質的診断は、潰瘍形に向けられるべきで、前記ニツシエと標本の不一致は、潰瘍形と胃回転が主因であることを確証した。さらに、このことは治療によるニツシエの経過観察に、特に重要となるものであることも証明した。

4. 各種利尿剤の水利尿に及ぼす影響について

三輪清三, 東条静夫, 宇井清
江畑耕作, 沖山肇, 島岡恒男
三沢欣也, 大森正雄, 美島俊二
中野邦一郎, 広瀬賢次, 小高四郎
小守重徳, 高橋龍嗣, 津村澄雄
寺田武, 手代木儀八, 長田信
中山繁, 藤原秀人, 藤田一郎
星野英一, 細野茂, 丸山保雄
前田馨, 三嶽寿一郎, 加藤専一
菅能磨一, 小倉光一, (第一内科)

当内科入院中の主として心、腎、高血圧性疾患を対象とし、各種利尿剤の水利尿に及ぼす影響を検討した。即ち一定期間食塩制限の後、先ず Volhaud の稀釈及び濃縮力試験を行い、短期間再び同試験を施行し、この際水負荷と同時に高張糖液、水銀利尿剤、メラニン製剤、テオフィリン製剤及びダイアモックスを併用し、両試験の尿量及び尿中 cl. K. Na を測定し、比較検討した。その成績によれば高張糖液及びメラニン製剤を除く、利尿剤は水利尿を増強し、更にその固有の電解質排泄作用を発揮する事を明らかにした。

5. 腎機能に関する研究特に水利尿について

三輪清三, 東条静夫, 狩野歳司
宇井清, 江畑耕作, 永峰文治
杉山甲子造, 沖山肇, 鈴木徳雄
島岡恒男, 足立公代, 小川欽一
関克巳, 徳弘英生, 越川一男
鹿間敏夫, 山崎昇, 中林遙
渡辺国太郎, 中村典男, 松永幹
野口吾郎, 倉持邦雄, 遠山寅雄
吉野満, 安井成美, 岡本修
越後貫道子, 及川貞, 刑部逸平
俵田光一, 中島博太郎, 中安讓二郎
成田亘,

内科的諸疾患(心、腎疾患及び糖尿病等)を対象として、それ等疾患の様相を水分並びに電解質代謝

の面より解明する目的で、次の如き研究を企図した。即ち水負荷並びにこれら各種利尿剤及びホルモン製剤を併用した際の、血漿並びに尿の各成分の変動を逐時的に追究し、一方、体液構成(細胞外液、循環血漿量、血漿蛋白像及び電解質等)並びに諸腎機能検査及び副腎皮質機能検査を併せ施行して、これ等が水利尿の発現に如何に関与するかを検討した。

6. 同一対象の毎月検便に於ける Shigella, Arizona, Bethesda-Ballerup 検索成績

師尾武, 鈴木和夫, 杉村修一
中田秀明, 鈴木一郎, 松本清一
高相豊太郎, 山田達哉, 小沢栄吉
大河内武, 大田垣豊穂, 尾林秀春
中村卓二, 中島正男, 丹羽元
野未禧徳, 野島清, 加藤栄三郎
石川渉, (第一内科)

昭和 30 年 5 月より 10 月迄、成人 62 例について、毎月 1 回の検便により、Shigella, Arizona, Bethesda-Ballerup の検索を行つた。延 358 回の培養により Shigella 4 株, Arizona 11 株, Bethesda 49 株, Ballerup 7 株を検出した。62 例中 31 例が 1 回以上 Bethesda を検出した。Arizona 10 例, Ballerup 7 例, Shigella 4 例である。また 8 例に Bethesda 又は Arizona の、連続検出例が見られた。これらの菌は定着菌となることがあると考えられる。分離菌の性状は Kaufmann の記載と大部分が一致した。

7. 抗結核剤の甲状腺機能に及ぼす影響について

角田富雄, 上野高次, 田中由宜
伊藤良昭, 秋葉藤一, 有田文章
佐藤実, 砂金美和, 中島哲二
川口光, 野上英高, 新井利男
加倉井登, 秋田茂, 中島忠一
前田裕, 近藤審, 永瀬敏行
目々沢俊夫, 小林正秀, 境好雄
斎藤昌久, 高橋富幸, 竹中昇
手塚恒彦, 豊島正道, 保坂栄治
山下三郎, (第一内科)

結核を主とせる 60 例の患者に、同薬物の甲状腺に及ぼす影響を、 I^{131} 甲状腺摂取率、 I^{131} 転換率、P. B. I. B. M. R. 等により検討を加えた。1 週間